

2026年3月期 第1四半期 決算補足資料

- | | |
|----------------|-------|
| 1. 決算概観（連結） | P.2 |
| 2. 業績（連結）のポイント | P.3 |
| 3. 業績（連結）の状況 | P.4 |
| 4. 業績と予想（連結） | P.5 |
| 5. 主要製品の状況 | P.6 |
| 6. 開発品一覧 | P.7～9 |

2025年7月31日
杏林製薬株式会社



■ 将来の見通しに関する注意事項

本資料には、当社グループに関する業績見通しや目標・計画等、将来に関する事項が含まれています。これらの記述は、本資料作成時点において入手可能な情報や予測に基づく、当社グループの仮定や見通し等の判断によるものであり、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しております。したがって、その後発生した種々の要因により、実際の業績や開発品の進捗・成否、その他の見通し等が記述内容と大きく異なる可能性があります。また医薬品（開発中のものを含む）に関する情報が含まれておりますが、その記述は宣伝広告や医学的アドバイスを目的としているものではありません。

2026年3月期 第1四半期 決算概観（連結）



（単位：百万円）	23年3月期 第1四半期	24年3月期 第1四半期	25年3月期 第1四半期	26年3月期 第1四半期	対前年 （%）	26年3月期 第2四半期 （予想）	対前年 （%）	26年3月期 （予想）	対前期 （%）
売上高	24,619	27,854	28,419	30,229	+6.4	57,400	+4.1	127,000	-2.4
営業利益	489	871	1,150	2,368	+106.0	1,700	+9.7	6,100	-51.5
経常利益	779	1,074	1,417	2,624	+85.1	1,800	-12.2	6,300	-52.3
親会社株主に帰属する 四半期（当期）純利益	1,183	787	885	2,100	+137.1	1,400	+11.5	4,800	-47.2

26年3月期 第1四半期 連結業績（実績）

【売上高】 当社グループ全体の売上高は302億29百万円と前年同期比18億10百万円の増収となりました。新医薬品等（国内）の売り上げは、薬価改定の影響はあったものの、積極的な新薬の普及に努め、主力製品である「ベオーバ」、「ラスビック」等が伸長したことにより、前年同期を上回る実績で推移しました。また後発医薬品の売り上げは、薬価改定の影響を大きく受けましたが長期収載品の選定療養の導入等もあり、増加しました。

【利益】 売上の増加により、売上総利益は前年同期に対して9億10百万円増加しました。また販売費及び一般管理費は、前年同期比3億8百万円減少（うち、研究開発費は78百万円減少）した結果、営業利益は23億68百万円と前年同期比12億18百万円の増益（前年同期比106.0%増）となりました。経常利益は26億24百万円（前年同期比85.1%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は21億円（前年同期比137.1%増）となりました。

26年3月期 連結業績（予想）

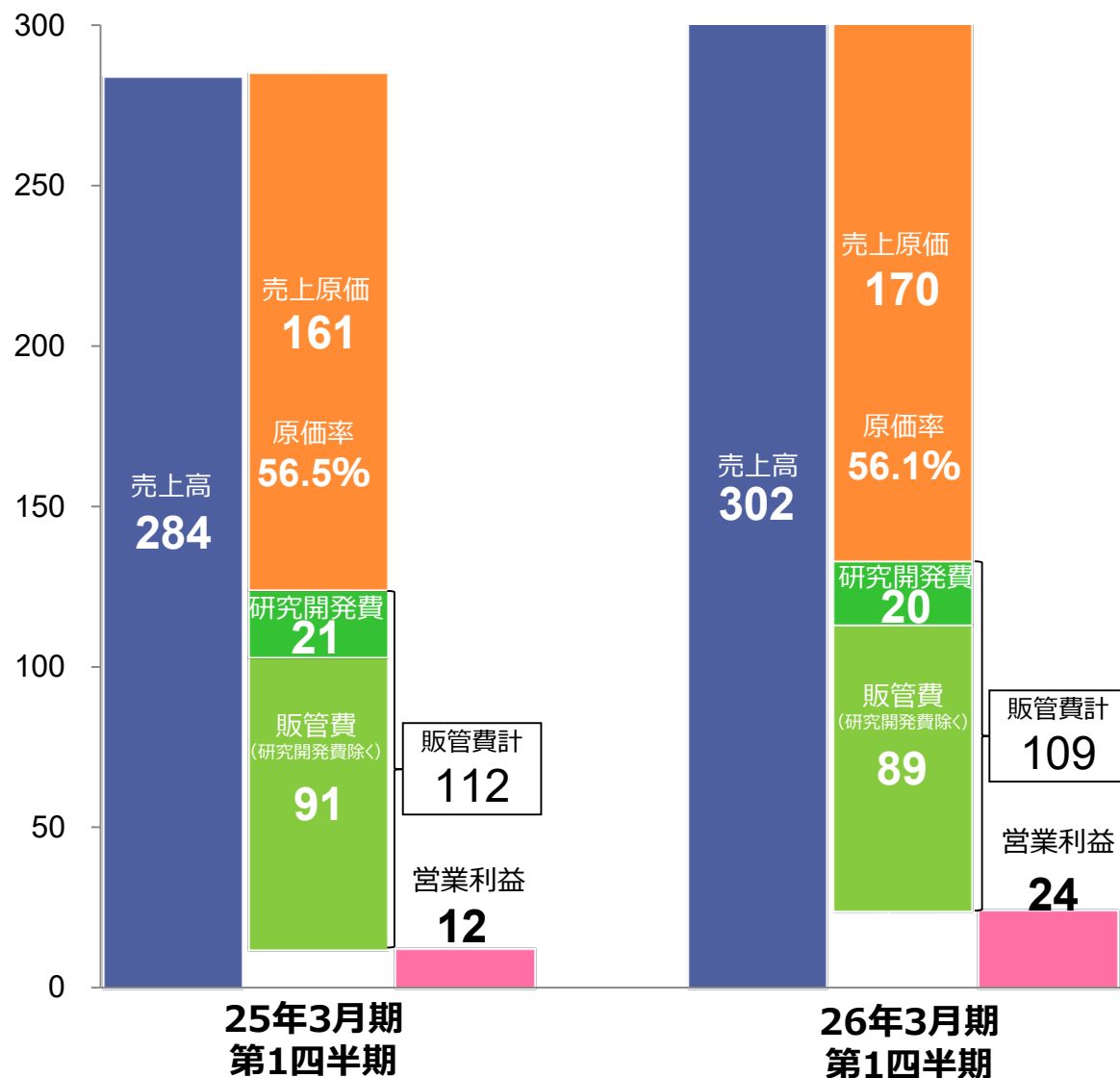
現時点におきまして、2025年5月12日に公表した第2四半期及び通期の業績予想を変更しておりません。

（第2四半期業績予想に対する進捗度 売上高：52.7%、営業利益：139.4%）

また2025年5月12日に公表した配当予想（年間57円／株）の変更はございません。

2026年3月期 第1四半期 業績（連結）のポイント

(単位：億円)



【ポイント】

売上高は増加 (+18億円)

- 新医薬品等（国内）の売上増加
・新薬（ベオーバ、ラスビック等）の伸長
- 後発医薬品の売上増加

売上原価率は0.4ポイント低下

【低下要因】

- 新薬（ベオーバ、ラスビック等）の売上増加
・新薬比率の上昇

【上昇要因】

- 薬価改定（杏林製薬5%台）等

売上総利益は増加 (+9億円)

販管費は3億円減少

- 研究開発費は1億円減少
- 販管費（研究開発費除く）は2億円減少
・本社移転等によるコスト削減

営業利益は増加 (+12億円)

2026年3月期 第1四半期 業績（連結）の状況

(対前年)

(単位：億円)	25年3月期 第1四半期	26年3月期 第1四半期	対前年 (額)
売上高	284	302	+ 18
新医薬品等(国内)	199	215	+ 16
新医薬品(海外)	3	4	+ 1
後発医薬品	82	84	+ 2
営業利益	12	24	+ 12
経常利益	14	26	+ 12
親会社株主に帰属する 四半期純利益	9	21	+ 12

■ 売上高	302億円	(+ 18)
● 新医薬品等（国内）	215億円	(+ 16)
	25.3 (1Q)	26.3 (1Q)
・ベオーバ	53 ⇒ 62	(+ 9)
・ラスビック	16 ⇒ 20	(+ 4)
・リフヌア	2 ⇒ 2	(0)
・デザレックス	18 ⇒ 20	(+ 2)
・フルティフォーム	32 ⇒ 33	(+ 1)
・ペンタサ	32 ⇒ 32	(0)
・キプレス	10 ⇒ 5	(- 5)
・ムコダイン	8 ⇒ 10	(+ 2)
● 新医薬品（海外）	4億円	(+ 1)
ガチフロキサシンに関わる収入等		
● 後発医薬品	84億円	(+ 2)
2024年度追補収載品の売上寄与等		
■ 営業利益	24億円	(+ 12)
● 原価率：56.1%（前年同期：56.5%）		
【低下要因】新薬（ベオーバ、ラスビック等）の売上増加、新薬比率の上昇		
【上昇要因】薬価改定等		
● 研究開発費：20億円（前年同期：21億円）		
● 販管費(研究開発費除く)：89億円（前年同期：91億円）		
本社移転等によるコスト削減		
■ 親会社株主に帰属する四半期純利益	21億円	(+ 12)

2026年3月期 第1四半期 業績と予想（連結）

(単位：百万円)	第1四半期						第2四半期		通期	
	25年3月期	26年3月期	対前年 (額)	対前年 (%)	中間 進捗率 (%)	通期 進捗率 (%)	25年3月期	26年3月期 (予想)	25年3月期	26年3月期 (予想)
売上高	28,419	30,229	+1,810	+6.4	52.7	23.8	55,139	57,400	130,087	127,000
新医薬品等（国内）	19,862	21,492	+1,630	+8.2	52.8	24.1	39,029	40,700	84,158	89,000
新医薬品（海外）	326	359	+32	+10.0	359.6	179.8	424	100	8,860	200
後発医薬品	8,229	8,377	+147	+1.8	50.8	22.2	15,686	16,500	37,068	37,700
営業利益	1,150	2,368	+1,218	+106.0	139.4	38.8	1,549	1,700	12,567	6,100
経常利益	1,417	2,624	+1,206	+85.1	145.8	41.7	2,050	1,800	13,219	6,300
親会社株主に帰属する 四半期（当期）純利益	885	2,100	+1,214	+137.1	150.1	43.8	1,255	1,400	9,086	4,800

2026年3月期 第1四半期 主要製品の状況

(単位：億円)		第1四半期						第2四半期		通期	
		25年3月期	26年3月期	対前年 (額)	対前年 (%)	中間 進捗率 (%)	通期 進捗率 (%)	25年3月期	26年3月期 (予想)	25年3月期	26年3月期 (予想)
新医薬品等 (国内)	ベオーバ (自社販売分) (過活動膀胱治療剤)	53	62	+9	+17.8	53.7	24.8	104	116	221	251
	ラスビック (ニューキノロン系抗菌剤)	16	20	+4	+30.5	54.7	23.8	30	37	78	85
	リフヌア (選択的P2X3受容体拮抗薬／咳嗽治療薬)	2	2	0	+14.8	46.5	21.1	4	5	9	11
	デザレックス (アレルギー性疾患治療薬)	18	20	+2	+9.8	54.4	19.4	34	36	96	101
	フルティフォーム (喘息治療配合剤)	32	33	+1	+2.5	53.3	25.0	64	62	137	132
	ベンタサ (潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤)	32	32	0	+0.4	53.8	27.4	62	59	122	116
	キプレス (気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤)	10	5	-5	-46.1	66.2	25.2	18	8	35	21
	ムコダイン (気道粘液調整・粘膜正常化剤)	8	10	+2	+28.6	43.9	18.6	15	22	36	52
	ミルトン (哺乳びん・乳首消毒剤)	4	5	+1	+3.9	50.9	25.4	9	9	18	18
	ルビスタ (環境除菌・洗浄剤)	3	2	-1	-31.8	40.8	20.4	6	5	11	10
後発 医薬品	モンテルカスト錠「KM」 (気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤)	28	22	-6	-21.1	44.3	19.2	50	49	120	113
	モメタゾン点鼻液「杏林」 (定量噴霧式アレルギー性鼻炎治療剤)	4	6	+2	+61.2	70.6	13.1	7	8	41	43

開発品一覧①（2025年7月31日現在）

Ph3 ～ 発売

開発段階		製品名／ 開発コード	予定適応症／ 対象疾患	起 源	特 徴	備 考
国内	海外					
Ph3 自社 (22年9月)	Ph3 エイタイヤー社 (アメリカ)	KRP-R120	間質性肺疾患 (肺サルコイドーシス)	エイタイヤー社	融合タンパク製剤であり、Neuropilin-2受容体（NRP2）に結合することで過剰な免疫細胞の活性化を抑制する作用を有し、ファースト・イン・クラスの治療薬として肺サルコイドーシス等の炎症疾患への効果が期待される	

POCプロジェクト（Ph1 ～ Ph2）

開発段階		開発コード	予定適応症／ 対象疾患	起 源	特 徴	備 考
国内	海外					
Ph1 自社 (22年8月)	—	KRP-114VP	過活動膀胱	メルク社	膀胱平滑筋に存在するβ3アドレナリン受容体を選択的に刺激し、膀胱を弛緩させることで蓄尿機能を亢進し、過活動膀胱における尿意切迫感、頻尿及び切迫性尿失禁を改善する	「ベオーバ」の小児への適応拡大
—	Ph1 自社 (21年4月：イギリス)	KRP-A218	重症化リスクを有する ライノウイルス感染症	自社	宿主分子を標的とし、体内におけるウイルス増殖を抑制する抗ウイルス薬	

開発品一覧②（2025年7月31日現在）

導入品の状況

※前回（2025年5月12日）からの更新

開発段階		開発コード	予定適応症／ 対象疾患	起 源	特 徴	備 考
国内	海外					
—	Ph1終了 バイエル社 （ドイツ）	KRP-S124 (BAY2925976)	閉塞性睡眠時 無呼吸等	バイエル社	ADRA2C拮抗作用を有し、中枢 性に上気道虚脱を軽減し、閉塞性 睡眠時無呼吸に見られる一時的な 無呼吸・低呼吸を改善することが 期待される	・BAY2925976及びそのバックアップ化合物につ いて、全世界を対象とした独占的製造、 開発、販売権に関するライセンス契約を締結 （24年12月）

※AKP-009は当社の開発戦略上の理由から、あすか製薬（株）との契約を解消し、開発品一覧から削除しました。

導出品の状況

開発 段階	製品名／ 開発コード	導出先	予定適応症／ 対象疾患	起 源	特 徴	備 考
Ph3 プリオセラ社	KRP-203	プリオセラ社 （アイルランド）	—	自社	S1P受容体アゴニスト	・本剤の開発・販売等に要する特許・データ等の 知的財産及び原薬等を譲渡（20年9月）
前臨床	KRP-M223	バルティス社 （スイス）	マスト細胞が関与 する慢性特発性 蕁麻疹などのアレ ルギー性疾患や炎 症性疾患	自社	MRGPRX2 拮抗薬	・KRP-M223及びそのバックアップ化合物につ いて、全世界を対象とした独占的な開発、製造、 及び商業化に関するライセンス契約を締結 （25年3月） ・当社は日本における商業化及び日本向けの 製造に関するオプションを保有

その他：（2025年7月31日現在）

DTxの状況

契約先	開発コード	予定適応症／ 対象疾患	備考
サスメド(株)	KRP-DT123	耳鳴	耳鼻科領域における治療用アプリの共同研究開発及び販売に関する契約を締結（22年11月） 特定臨床研究開始（23年9月）
ハイフ社 （アメリカ）	KRP-DC125	慢性咳嗽	慢性咳嗽治療用アプリに関する「開発・商業化契約」を締結

オプション契約

開発段階		開発コード	予定適応症／ 対象疾患	起 源	特 徴	備 考
国内	海外					
—	Ph1実施中 ビオドール社 （フランス）	BDT272	慢性疼痛等	ビオドール社	神経障害性疼痛などの慢性疼痛の発症と持続に深く関与するFLT3（受容体型チロシンキナーゼファミリー）を阻害することで、効果的な鎮痛作用を発揮することが期待される	・日本及びアジア地域（中国を除く）における開発・販売権のライセンスに係るオプション契約を締結（25年1月）
—	Ph2実施中 シラーノ社 （アメリカ）	CYR-064	感冒後嗅覚障害	シラーノ社	テオフィリン含有点鼻製剤であり、非特異的ホスホジエステラーゼ阻害作用によりcAMPの分解を抑制し、細胞内濃度を上昇させて神経の興奮性を高める	・日本における開発・販売権のライセンスに係るオプション契約を締結（25年2月）